

質問1 志布市政の中間総括

(1) 質問趣旨

志布市政が誕生し、上半期（約2年）が経過した。そこで中間総括につき周知したいと考える。

(2) 質問事項

- ① 現在の村山市とは
- ② 市長の選挙公約への対応と成果、そして課題
- ③ 各課に課せられた至上命題（所謂、志布市政の柱）の認識
- ④ 前項の至上命題に対する成果と課題の認識
- ⑤ 前項の課題に対する、残りの下半期（現状を含む）における展望（対処・解消策など）

(3) 質問のねらい

- ① 自身の当選結果の総括として、得票数は期待感の現れだと感じた。そこで、期待感の対極に位置する現在の市政状況を市民に周知させることが自身の最初の責務であると感じた。
- ② 経験がなく、専門性を有する土壌もない新人議員の初めての一般質問であること、志布市政が始まって丁度2年が経過したこと、および同時期が改選の時期と重なったことを踏まえた。
- ③ 市長はもとより、会社と同じような組織としてこういった指示系統が具体的には存するのかを判明させたい。
- ④ 慣例（市長・副市長を主体とする形式的な問答）に甘んじることなく、議会、および執行部における意識改革の契機としたい。

(4) 総括（成果や反省点など）

- ① 時間配分の想定が甘かった。
- ② 質問の趣旨を明確にするため議場で話しても聴いていない気がした（通告表ありきで答弁がなされているイメージ）。そのため、質問と答弁がかみ合っていない。結局、旧態依然のままに事前に執行部と念入りに議論していく必要があるということか（少々面白みに欠けるが）。
- ③ 議会で聴くべきことではない、との風潮もあったが私はそうは思わなかった。むしろ、議会というものに対する私と執行部との意識にかなりの乖離があると感じた。多忙な業務をぬって執行部の皆さんが全員揃う意味とは何かを考える必要があると思う（担当課で済ませられるのであれ

ば、極端な話、全員が議会に参加する必要もないとも言える)。いずれにしても、行政、議会についてこそ意識改革がまだまだほど遠いところにあるのではないかと痛感した。

- ④ 閉会后、ある課長さんから「本当にこの答弁で良かったのかと今も自問自答している」という言葉があり、質問の趣旨を何とか肉にしていこうと考えてくださる方もおられることに、今後の期待が持てる気がするし、非常にありがたかった。
- ⑤ 当日、イスが足りないほど傍聴に市民の方からお越しいただき、実際に「来て良かった」「今後も来てみようと思う」との嬉しい反応があった。今後も市民参加を得られるよう尽力したいと思った。
- ⑥ 次回からは、こうした大きな質問をする機会も少ないと思うので、限定的かつ戦略的にきちんと準備をしていきたい。

質問2 『次世代』『魅力』に主眼を置く事業の現状と課題

(1) 質問趣旨

「次の世代へ引き継ぐ魅力ある村山市を創る」という第5次村山市総合計画の基本理念を受けて

(2) 質問事項

- ① 県立村山産業高等学校（以下、同校と略す）への再編経緯の認識
- ② 村山市政にとっての同校の位置づけ
- ③ 村山市政及び同校間の現在の連携、及び今後の展望
- ④ 同校の環境整備事業

(3) 質問のねらい

- ① 再編経緯も踏まえ、村山市にとっての現在及び将来的な産業高校の位置づけを明確にしたい。
- ② 位置づけや現在の連携を明らかにして、いかに産業高校生が村山市の産業（農業、商業、工業）にとっての有益となり得る貴重な人財であるかを浮き彫りにさせたい。
- ③ 上記①②を踏まえ、そもそもの道路（鶴ヶ町西線）延伸などの事業の趣旨がそうした人財となりうる生徒達の安全確保であるならば、早期の実現が不可欠である。例えば、現在の市の説明では完成まで15年ほど要するという事だが、楯岡高校が今年度で終了するとは15年前には誰にも想定し得なかったはず。時代の流れは早い。15年後に産業高校が市内に置かれていることは誰にも保証できないし、仮にそうなったならば、まさに本末転倒な事業となってしまう。

- ④ 「県立」高校である点も考慮して市の単独事業(国の交付金事業も含む)ではなく、県との連携も得ていくべき旨を提言したい。

(4) 総括(成果や反省点など)

- ① 建設的な議論になるようきちんと準備をしておったにもかかわらず、時間配分ミスで言葉急ぎの単なる要望で終わってしまった。
- ② 質問1の答弁を途中で区切られるという技術を知らなかった(実際に市長答弁が終わった際にすでに全体時間の半分近くを使用してしまったため、その際に質問2にも触れるために敢えて「課長答弁は結構です」と言いたかったが、言えなかったし、課長答弁を是非この際伺いたいという本音に勝てなかった)。
- ③ 次回まで更なる準備をして、同質問に臨みたい(それ以上に3月定例会まで同質問に至らずに済むように積極的な働きかけも行っていきたい)。

以上